

午後Ⅱ試験

全問に共通して、“論述の対象とする構想，計画策定，システム開発などの概要”又は“論述の対象とする製品又はシステムの概要”が適切に記述されていないもの，項目相互間に矛盾があるもの，“①名称”が論述内容と整合性が取れないものなどが散見された。これらは，評価の対象となるので，矛盾が生じないように適切な記述を心掛けてほしい。

IT ストラテジストの経験と考えに基づいて，設問の趣旨を踏まえて論述することが重要である。問題文及び設問の趣旨から外れた論述や具体性に乏しい論述は，評価が低くなってしまうので，注意してほしい。

問 1（デジタル技術を活用した業務プロセスによる事業課題の解決について）

企業の経営戦略に基づいて事業課題の解決を目指した業務プロセス改革を実行した経験がある受験者には，論述しやすかったと思われる。一方で，デジタル技術を活用したシステム導入に終始している論述も少なかつた。また，事業特性や背景にひもづいていない事業課題の論述や，解決を目指す事業課題，実現すべき業務プロセス，活用したデジタル技術の関連が明確でない論述も散見された。デジタル技術によって事業課題を解決する業務プロセスとは何かを考察し，実践での経験を積んでほしい。

問 2（IT を活用したビジネスモデル策定の支援について）

新規事業や新サービスの企画を行った経験がある受験者には，論述しやすかったと思われる。一方で，策定したビジネスモデルについて具体的に論述せず，既存の業務改善のためのシステム開発の論述に終始しているものも少なかつた。設問はビジネスモデルの立ち上げにおける実践経験を問う問題として出題したが，単なる IT コスト削減や人材育成といった表面的な内容にとどまる論述も多かつた。経営環境の変化に対応すべく，経営目線で IT を活用したビジネスモデルの検討を推進できるよう，実践での経験を積んでほしい。

問 3（組込みシステムの製品企画における調達戦略について）

製品企画における調達戦略を策定した経験がある受験者には，論述しやすかったと思われる。一方で，製品の概要が不明瞭な論述，単なる調達の内容に終始している論述が見られた。また，調達戦略及び調達方針に伴うリスク分析を記述できていない論述も散見された。製品企画における調達戦略及び調達方針を理解し，実践で深く分析する能力を養ってほしい。